



“日本社会や岐阜県に寄与する人材を育てたい”

## 新年度奨学生30人を内定 大学院奨学生3人も

伊藤青少年育成奨学会(公益財団法人、田代久美子理事長)は、3月18日から22日まで、4日間の日程で、多治見市十九田町のパロー文化ホールで、2020年度奨学生(第21期)を選考する面接審査を行い、30人を内定しました。2020年度奨学生応募者総数は113人で、住所、在籍または卒業高等学校、志望大学、応募事由、自己PRなどを記した申請書と、指定された冊子を読んだ小論文(1200字)を添付して提出。田代久美子理事長と3人の選考委員(理事)による書面審査(一次選考)、面談(二次選考)を実施して、30人が内定となりました。なお、今期の指定冊子は稲垣栄洋・著『たたかう植物』(ちくま新書)でした。

伊藤青少年育成奨学会は1999年、学術、スポーツの各分野で、次世代を担う青少年の夢を育むことを目的に、(株)パロー(現(株)パローホールディングス)創業者・故伊藤喜美氏により寄贈された個人資産を基本財

産として設立され、翌2000年度(平成12年度)から大学奨学生に対し、奨学金の給付事業をスタートさせました。奨学金は月額3万円(年間36万円)の給付型で、初年度の第1期(2000年度)奨学生は17人。以降、2019年度までの20年間合計の奨学生は563人に達しています。また、2020年度大学院奨学生の内定は3人。永田和宏・著『知の体力』(新潮 新書)の小論文による審査で2月に内定しています。



2020年度奨学生 小論文 課題図書『たたかう植物 ～仁義なき生存戦略』(稲垣栄洋・著)

### 『生命が教えてくれるもの』

岐阜大学 河口 寛紀

岐阜大学地域科学部(岐阜東高等学校卒)

自分は何のために生きているのだろうか。その問いは、時間に追われる日常の中にふと浮かんで、答えが見つからないまいつの間にか消えていた。しかし、この本を通じて、問いに対する答えへの手がかりを得たと感じた。それは、懸命に生きる植物の姿にあった。

まず強烈に飛びこんできたのは、植物たちの、どんな手段を使ってでも命を繋ごうとする執念だ。弱肉強食の世界の中で、植物たちは生きる、あるいは子孫を残そうとする確固たる意志を持っている。そしてそのもとに、彼らは彼ら自身を大きく変化させてきた。生命を脅かそうとしてくる外敵や病原菌との長年の戦いで、身を守るために毒を蓄えたり、自然物に擬態したりといった様々な能力を得た。その中で、私が特に興味を持ったのは、他の生命との共生である。例えば、昆虫に花粉を食べさせて付いた花粉を他の花に運ばせて受粉させたり、子房から果実を作って動物や鳥たちに与え、種子を運ばせるなど、他者に利益を与え、それを利用して命を繋いでいるのだ。このような共生関係の象徴ともいえるのが葉緑体である。葉緑体は元々シアノバクテリアと呼ばれる細菌だったが、生物との戦いの末、葉緑体として共生することになった。このことによって多くの酸素を生み出せるよ

うになり、地球環境に大きな影響を与えた。そして、我々人間も、ミトコンドリアという元は独立していた生物が共生してできた器官があり、そして多くの常在菌と共生しているのである。植物は、命を繋ごうとする強い執念を持ち、そして時には自らの犠牲をいとわず、ただひたすらに、種の発展を目指している。さらには他者との共存・共栄にも取り組む。こうした姿勢は、我々にも大切なのではないだろうか。人間は目先のことだけにとらわれず、より大局的な視点から地球全体の持続的な発展を目指さなければならない。植物によって排出された酸素によって、偶然生まれた我々は、まさに生かされているのである。私自身、生まれたときに死の淵をさまよひ、脳性マヒによって障害が残りながらもなんとか生きて身なので、つくづく感じる。では、そんな我々にできることとは、一体何なのだろうか。それはまさに、全ての人や生物が共に発展できる社会にしていこうことである。雑草やサボテンのように、全ての人には輝く場所がどこかにある。そして我々の次の世代に、豊かな地球を託すことが、我々の使命であると考えている。自分は何のために生きているのだろうか。それは、今あるものを発展させ未来へと繋いでいくためである。

## “奨学会だより”でつなぐ夢の架け橋

わたしたち伊藤青少年育成奨学会と、奨学生のみなさん、運動部員のみなさん、そしてこれから奨学金を受けたいと希望しているみなさんをつなぐ架け橋として、2005年10月に『奨学会だより』第1号を発行しました。以来15年、今回、29号をお届け出来ることをうれしく思います。

わたしたち伊藤青少年育成奨学会は、郷土・岐阜の未来を切り拓く青少年のみなさんが、その夢を実現することができるようにと、2000年から資金援助を行っています。しかし、みなさんが目標にしている“夢”は容易に手に入るものではありません。実現までの道のりは長く、厳しく、途中幾度となく諦めを感じることも少なくないと思います。そんなときに、どこか遠くでがんばっているほかの奨学生のように目をすることができれば、

きっとみなさんの励みになるのではないのでしょうか。また、わたしたちの活動をまだ知らない方々もたくさんいるはず。経済的理由から将来に不安を持ち、夢を諦めようとしている仲間たちもいるかもしれません。そんな方々に、みなさんががんばっている声を聞いていただきたい。『奨学会だより』の発行にはそんな願いも託されています。奨学生や奨学生OB・OGのみなさん。ともがんばっている仲間たちや、あなたたちに続く後輩たちのために、いまのあなたの気持ちをお聞かせください。不安を抱えていたあなたがこの奨学金で一縷の望みを得たように、あなたの声を聞いて希望の光を見つける仲間がきっとどこかにいるはず。必ず。



夢本編へ

## 生まれ育った岐阜のために

金沢大学 近藤 勇太

人間社会学域法学類 公共法政策コース 4年

大学生生活を振り返り率直に思うことは、金沢大学に入学し、4年間学べたことは、自分にとって本当に大きな財産だということです。大学では社会人として生きていくうえで、また、警察官として職務にあたる際にも必要となってくる法学を学ぶことができ、所属していた刑事訴訟法ゼミでは、刑法、少年法、刑事政策における諸問題について深く考え、社会一般に浸透している感情論的な考え方を採ってはいけませんと、強く実感しました。これらの学びから得た知識、経験、考え方は、今後の自分に大きな影響を与えてくれるものであり、これは生涯忘れずに持ち続け、警察官としての職務にも大いに役立てていきたいです。

親元を離れ初めての1人暮らしで、寮生活も経験でき、2つのアルバイトのかけもちから多くの社会勉強もさせていただきました。進学せず、高卒で就職していたら、今の自分のなかにある大学で学んだことや経験したことがないのかと考えると、自分はどれほど人間として薄っぺらかったらと思うぐらい、それぐらい人として成長できた。とても充実した4年間でした。私が4年間、最後まで熱く取り組んだのは部活動です。私が入学する前年度に、金沢大学剣道部男子は北信越大会で優勝しており、最後の学生生活はそのようなレベルの高い環境で部活に打ち込みたい、という思いもあって金沢大学を志望しました。入学前から剣道部への入部を決めていたので1年4月に迷わず入部したのですが、中・高と弱小校で部活をしていた私と、同期や先輩との間には、かなりの実力差がありました。同じ取り組みでは実力差が埋められないため、私は大学生から認められている二刀で剣道をしよう決め、週4日の稽古と週2日の朝練(長期休暇は週6日の稽古)に一生懸命取り組みました。2年生の時から団体戦のメンバーに選んでもらえるようになり、2年のときは北信越準優勝でした(補欠のためインカレで試合に出ることはできませんでした)。3年生では自分の負けもあり、北信越大会の予選リーグ敗退という、金沢大学男子史上最悪の結果となってしまいました。その悔しさを胸に1年間稽古に励み、迎えた今年9月の北信越大会。主管として仕事もある大変な大会でしたが、金大男子として4年ぶりに優勝を果たすことができました。このときの、ずっと一緒にやってきた仲間と優勝を果たせた喜びは、人生最高のものでした。

私は、来年度から岐阜県の警察官として働いていきますが、まだ配属先な

どは決まっていません。警察には様々な課があり、それには既に起きた事件を捜査するところもあれば、事件を未然に防ぐ活動をするところもあります。私は市民を守る最後の砦としての警察職務全てに魅力を感じているため、まだ将来の所属希望先を決められていませんが、警察官として勉強していくなかで、最も私がやりたいこと、生涯をかけてより良い岐阜のために尽力したいと思うことを見つけたいです。そして、大学時代に得た知識・考え方を活かしながら、より良い社会、より良い岐阜になるには、ということ深く考えながら懸命に働き、様々なところへ恩返しをしていきたいです。また、大学では良い指導者や、良い同期に恵まれ、部活に打ち込むことができたので、この金大剣道部時代に得たもの、教わったものは全て、これから剣道をしていく後輩たち(地元スポーツ少年団の子どもたち)などに引き継いでいきたいです。二刀は禁止されていた時代もあり、取り組んでいる人が決して多くはないので、様々な方に二刀を知ってもらえるよう、また、自分自身も剣道家として成長できるよう、今後も精進していきたいです。

4年間、ご支援いただき誠にありがとうございました。私が奨学金の面接時にお話した、「大学では、法学を学んで岐阜県の警察官となり、岐阜のために尽力したい。最後の学生生活は、レベルの高い環境で部活に打ち込み、そこで培った競技力や得たもの、教わったものは地元の子どもたちのために還元していきたい」という夢の、第一段階は達成することができたのではないかと考えています。部活は拘束時間が長く、アルバイトを多くすることができませんが、それでも4年間部活に打ち込み、自身として初めて全国の大舞台で試合ができたこと、4年間健康でとても充実した学生生活を送れたこと、これら全てには貴奨学会からのご支援があったからです。夢への後押しをしていただき、この4年間を過ごせたことには感謝してもしきれません。4年間本当にありがとうございました。今後は私の思いを汲み、ご支援下さいました貴奨学会に報いることができるよう、生まれ育った岐阜のために警察官として、1人の社会人として、精一杯働いていきます。



精神科医療へ

## より深く人間社会を知るために

岐阜大学 田端 みずほ

医学部 医学科 5年

昨年11月から始まった院内実習も残りわずかとなりました。1年を通して全ての科で2週間~3週間ずつ実習をしました。特に印象に残っているのは、産婦人科です。手術では、帝王切開術に入らせて頂き、母親の体から赤ちゃんが産まれてくる所を間近で見て、心から感動しました。また、妊婦検診では、胎児エコーを見させて頂き、元気よく心臓が動いている様子や、体を動かしている様子を見て、生命が誕生してくる喜びを感じました。また、外科では、担当患者の手術に同席し、術後の診察を行いました。回診で先生から、「数字だけを見る医者になってしまうぞ」と、言われたことが強く心に残っています。まず、患者から話を聞き、変わった症状がないかどうかを見るのが大切であると学びました。私は精神科を志望しています。8月には岡山県の病院で行われた精神科医療セミナーに参加しました。2日間にわたり、医師や看護師、精神保健福祉士の方からお話を聞いたり、病棟診療や訪問診療、アルコールの認知行動療法を見させて頂きました。それぞれの職種の方が自分の仕事に生きがいを持ち、患者が自分らしく生活できるよう働いていることが強く伝わってきて、私も共に精神科医療に力を尽くしたいと考えました。一

番印象に残っていることは、医師が患者の上に立つのではなく、患者の横に立つことが大切であり、自分が治そうという思いが強いと、周りの声が聞こえなくなってしまうということです。分からないことを分からないといえること、他職種の意見を積極的に聞くことが大切だと知りました。今後も積極的に実習へ行き、多くのことを吸収していきたいです。精神科医療は、社会の縮図であるということを知ることがありますが、病院実習を通してその事を強く感じています。患者の病気の背景には、貧困や孤立といった社会問題が関わっていることも多いです。5年生になってから社会問題について強い関心を持つようになり、貧困や介護、虐待などに関する本を読むようになりました。また、ひきこもりについて、当事者や家族、支援する側の立場から話を聞く機会もありました。今まで知らなかった当事者や家族の本音を知り、社会で働けるようになることこそ問題解決の道だという考えが大きく間違っていたことに気づかされました。私の知らない社会問題がまだまだ多くあると思います。本を読んだり、話を聞いたり、実習に行ったりして、社会問題を知り、精神医療において必要とされることは何か考えていきます。



## 岐阜の生物多様性を守る サンショウウオにアユに・・・

岐阜県立岐阜高等学校 自然科学部生物班2年生 部長 天満 陽奈子

この度は、私たちの活動にご支援をいただき、誠にありがとうございました。現在、いただいた奨学金でサーマルサイクラーを購入し、実験に活用できるよう準備を進めています。今後、さまざまな研究を進めたいと思います。また、今夏は、シンガポールで開催されるグローバルリンクシンガポールに日本代表としてカスミサンショウウオの性フェロモンの研究を発表させていただきます。さらに、佐賀県で開催される第43回全国高等学校総合文化祭、山形で開催される慶應義塾大学主催

のバイオサミットin鶴岡、北海道で開催される日本進化学会では、アユと冷水病菌の季節的相互関係についても発表させていただきます。地元岐阜に由来するカスミサンショウウオとアユについて研究し、発表できることを嬉しく思っています。これもひとえに、貴会の御支援の賜物と感謝申し上げます。今後も継続研究を行い、さらなる発展を目指していきます。引き続きご支援のほどよろしく願い申し上げます。

令和 元年8月吉日

岐阜県立岐阜高等学校 自然科学部生物班 顧問 矢追 雄一

岐阜市内のカスミサンショウウオの保護活動と繁殖行為の研究を軸に、岐阜県の生物の多様性を守る活動をしている。2年前より長良川、揖斐川のアユと冷水病菌の解析を始めた。毎月、上流、中流、下流、河口までの18カ所所で採水し、環境DNAを用いて、アユと冷水病の分布と量の解析を行っている。2015年に本自然科学部も認定に携わった世界農業遺産「清流長良川の鮎」について、蓄積した技術を利用して岐阜高校ならではの研究ができないか検討する中、始まった。冷水病対策は天然水域のアユ資源を保全する観点から大変重要である。近年注目されている環境DNA定量解析を利用し

て、アユと冷水病菌の検出を行い、アユの資源量の年間の推移を解析することより、長良川河口堰の運用に一石を投じたいと考えている。助成金で購入したサーマルサイクラー(PCR器)は、微量なDNA量を正確に解析する高度な機器である。現在、長良川・揖斐川のアユと冷水病菌の季節変動を解析している。また、アユの遡上について長良川河口堰にて巨額の予算を投じて行われているが、ビデオ撮影と目視による調査に加えて、私たちは環境DNA調査を併用する方法を確立した。本機器を用いて、河口堰がアユの遡上に与える影響を調査し、水産資源の管理に一石を投じたいと考えている。

## シダクロ(蜂)の生態研究

岐阜県立多治見高等学校 科学部生物班 教諭 佐賀 達矢

岐阜県東濃地方に所縁があり、秋の味覚として地元の人々に食されるシダクロスズメバチ(以後、シダクロ)の生態の研究を行いたい。地元の蜂愛好家はシダクロの巣を採集し、飼育して大きく育てた後に食べる。ところが、野生のシダクロが何を捕食しているかは知られていない。本研究では、シダクロの幼虫の消化管内にある未消化物から餌生物のDNAを抽出し、DNAバーコーディング法を用いて餌生物種を特定する。DNAバーコーディング法を用いてスズメバチ類の食性解析を行う研究は前例がなく、成果が期待でき、学術的なインパクトも大きい。

岐阜県立多治見高等学校 科学部生物班 校長 鈴木 彰

このたびは、本校の科学部に對しまして貴奨学会のスポーツ振興支援事業・地域振興支援事業より多大なるご支援・ご援助を賜りましたことに対しまして厚くお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

今後は、このご支援で購入させていただくDNA抽出・解析機器等を大切に使い、課題研究を推進しその研究成果を地域や学会等の様々な機会でご発表すべく精進するつもりであります。

今後とも、変わらぬご支援をお願いするとともに、貴事業の益々のご発展を祈念し、まずは書面をもってお礼に代えさせていただきます。

## 全国総文祭で これまで一番の演奏

岐阜県立岐山高等学校 箏曲部(そうきょくぶ) 顧問 横山 理恵

「玩具のような箏」、「生徒がかわいそう」と言われておりましたが、助成金のおかげで、正式な箏を購入することができました。7月に行われた岐阜県高等学校連合音楽会と全国高等学校総合文化祭には、購入した箏を加えて演奏し、今まで以上の演奏ができたと感じています。連合音楽会では、金賞は逃したものの、一人の審査員から満点の評価をいただきました。これは部員の自信につながり、全国総文祭では、これまで一番の演奏ができたと思います。

また、防水カバーのおかげで、楽器を傷めることなく、全国総文祭開催地である佐賀県へ運搬し、小雨のなかで会場に搬入することができました。



## 男女ともに全国制覇へ

岐阜県立岐阜総合学園高等学校 弓道部 顧問 西川 真吾

多くの弓道部がそうですが、本校でも生徒が使う弓は部のもを貸し出しています。入部したての初心者から、大会で活躍する3年生まで、段階的に生徒個々の体格、体力に合わせて弓を強くしていく。骨格次第で弓のサイズも変えなければならず、多くの弓が必要になります。通常の学校からの消耗品費では、年間に一張購入することがやっとという状況です。学校やPTAからの予算が少ない中で、以前にも貴事業のご支援を受け、女子選手が使うサイズ、強さの弓を充実することができ、そのおかげで全国制覇を達成することもできました。一方男子も、昨年度は県で3位に入賞するなど、着実に実力をつけてきていますが、男子が使う弓は不足しており、弓力を上げたい選手に対応できていませんでした。今回、65万円というまとまった支援金をいただき、一度に10張もの弓を購入することができました。弓懸(ゆがけ)もいろいろなサイズやタイプを6つも購入することができ、様々な選手の指導に対応できるようになりました。男子も全国制覇を目指して一段とモチベーションを向上させています。この度は誠にありがとうございました。



# シリーズ 第29回

## この本をあなたにも薦めたい

伊藤青少年育成奨学会 事務局長 加納 志貴



### 『思考のレッスン』

著：丸谷 オー(まるやさいいち)  
発行：平成11年9月 (株)文芸春秋

「よく考える」と言われても、考え方が判っていますか?考えるという行為は、自然に、誰にでも備わっているものではありません。訓練していないければ、考えた“つもり”で終わります。“他人の考え”を“自分の考えだ”と思い込むことに成りかねません。一次元でしかないメールのやり取りでは通用しません。四次元で考え判断していく。思考の達人と呼ばれる丸谷さんが、考えるためには本を読み、簡単に答が見つかったと思うな、仮説は大胆不敵に、文章は頭の中で完成させよと、思考のコツやルールを教えてくださいました。

## ボート 第39回全日本中学選手権競漕大会 長良川国際レガッタコース

全日本中学選手権競漕大会実行委員会 委員長 山本 伊知郎

令和元年7月20日(土)～21日(日)に岐阜県海津市にあります、長良川国際レガッタコースにおきまして、第39回全日本中学選手権競漕大会が開催されました。全国25都府県から217クルー(502名)がエントリーし、男女別にシングルスカル、ダブルスカル、舵手付きクワドルブルの3種目で競われました。本年は大会前々日の7月18日に、長良川上流部の豪雨による増水に伴い、水面のコースロープ、コースパイなどが切れてコース下流に流されてしまいました。19日の公式練習については、流木やゴミなどがコース内にあふれて危険であったので、公式練習を中止としコースの安全確保(撤去作業やロープ等の回収作業)を行い、翌日の状況で予選を開催するかしないかを検討しました。20日早朝からコースの復旧に踏み切り、全長1,000mであったコースを、500mに短縮することでどうにか設営しなおし、予選を行うことができました。また最終日21日は早朝より霧が立ち込め、視界不良によりレース開始が遅れましたが、レース間隔を短縮するなど役員、選手の協力を得て無事終了することができました。ボート競技は本来、長距離で競う種目ですが、距離が短くなったことによってスタート位置からゴールまで、観客からとても見やすくなり大いに盛り上がりました。2005年に世界選手権が開催された長良川の地で、選手たちが様々な困難にめげず真摯に漕いでいる姿に、感動もひとしおでした。この度はご支援いただきまして、誠にありがとうございました。



### 地域振興支援事業

<多治見市新町1-45-2>

### 岐阜県知的障がい者サッカー連盟

理事長 保 義博  
事務局長 鈴木 祐史

## 『岐阜県知的障がい者 サッカーフェスティバル』

今回の助成金により、知的障がい者サッカー連盟が主催となる『岐阜県知的障がい者サッカーフェスティバル』を初開催することができました。東濃地区から西濃地区までの14チームや個人での参加により150名が集まりました。普段、サッカーの試合をする機会が少ない者や、初めて知的障がい者サッカーに関わる者もあり、大変有意義な活動となりました。今後も、当連盟として今回のような活動を継続し、知的障がい者へのサッカーの普及促進、社会参加を促していきたいと思っております。誠にありがとうございました。

岐阜県知的障がい者サッカー連盟は、体力の向上や知的障がい者スポーツの振興、自立と社会参加の促進、全国障害者スポーツ大会の優勝を目指し発足しました。知的障がい者サッカーはFIFAサッカールールと全く同じですが、発達障がいの程度により試合時間を調整したり、国際試合などでは45分ハーフで戦ったりします。世界選手権も開催されており、FIFAワールドカップ開催年に同じ開催国で行われる、「もうひとつのワールドカップ」と呼ばれる大会もあります。日本国内においては、約7,400名のプレイヤーがおり、それぞれの力量により楽しんでます。岐阜県では、知的障がい者サッカーに約400名のプレイヤーがいます。知的障がい者の生涯スポーツの場として、特別支援学校の部活(県内9校)として、小学生

から40代と多くの方が活動しています。しかしながら、岐阜県では、知的障がい者がサッカーを「やりたい」と思っても、レベルや年代に応じたサッカーをできる環境や場の整備、提供に課題が大きくなりました。そうした課題を受け、今回伊藤青少年育成奨学会からいただいた支援金で、知的障がい者サッカー連盟が主催となる『知的障がい者サッカーフェスティバル』を初開催することができました。

サッカーフェスティバルには、東濃地区から西濃地区まで多くのチーム、個人が集まり、小学生から40代までの男女150人が参加しました。フェスティバルは、勝敗にこだわらず「本戦部門」と楽しくサッカーをすることを目的とした「フレンドリー部門」に分かれ、開催されました。試合中は対戦相手と激しくボールを奪い合う姿、点を決めて仲間と喜びを共有する姿、試合中に励ます姿などが見られました。また、今回初めて知的障がい者サッカーに関わる者もみえ、活動を広く知っていただくことができました。今後も活動を続けていく中で、ボール一つで出来るサッカーの魅力を通して、知的障がい者を含む多くの人々のコミュニケーションを促進させ、知的障がい者にとっての真の社会参加が出来る社会を目指していきたいと思っております。助成金により、大変有意義な活動ができました。誠にありがとうございました。

### 阿木高校生による

## 阿木地域活性化プロジェクト

中津川市立阿木高等学校

チームAGI 学校長 森井 静子

「チームAGI 阿木高校生による阿木地域活性化プロジェクト」は、平成30年に立ち上げた。平成30年度は地元「そば」を全国にPRしようと、「全国高校生そば打ち選手権大会」に出場。また、地元産の小麦やクリやリンゴ等の農産物を活用した商品化など、地域連携による農業の六次産業化にも取り組んできました。今回の助成金によって、「全国高校生そば

打ち選手権大会」への出場を目指した活動の大きな支援となりました。高額なそば粉やそば打ち道具が購入できたことで、今後も引き続き阿木地域の活性化に貢献できるものであります。生徒そして地域の方も大変感謝しております。誠にありがとうございました。



公益財団法人

伊藤青少年育成奨学会

〒507-0062 岐阜県多治見市大針町661番地の1  
株式会社パローホールディングス 多治見本部2階  
※Eメールアドレス、電話番号はホームページでご確認ください。  
<http://www.ito-zaidan.or.jp>



発行 公益財団法人  
伊藤青少年育成奨学会

印刷 株式会社コーラム